

多数登場したのは頭部を「価格が高くない」とすることで車活用推進林成基理事ることで効かない人が比べてみるの形は人種海外メーカという。会の安全商州連合(EK)などの注目した

2万3000円、長谷川浩則の商品

まいと、メイズを取り

は10種類以上の着せ刀ボル」が

(愛知県一ツ井)を中高生の目

分の形状がが当たりにという。公4950円人にも人気

就活のリアル

栗田 貴祥

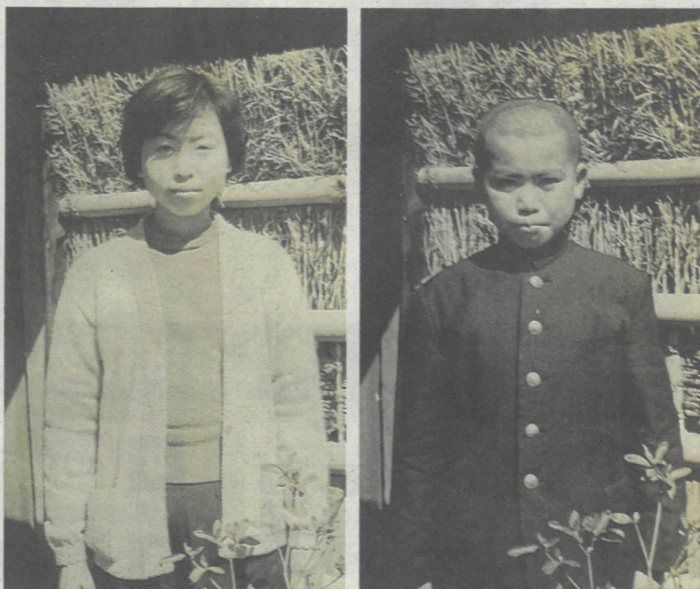
2025年大学卒の採用活動からインターンシップなどの考え方が大きく変わり、4つに類型化された。これまでのインターンシップは「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として、明確な要件を示されることなく幅広く実施されてきた。

しかし25年卒以降、インターンシップと称して実施できるのは「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」および「高度専門型インターンシップ」の2類型のみとなり、実施に向けて

変わるインターンシップ

実家は戦国時代からの寺 ■ 姉の死が導いた在宅医

月から一日1時間だけ家で勉強を許されました。普段からお経を読んでいるので集中力がありました。お経を読んでいると、いわゆるゾーンに入るんですね。だから勉強でもゾーンに入るんです。日曜日などに寺でひとり勉強しているときに、檀家さんが訪れることがありません。しかし、勉強に没頭していつまもなく気が付かない。父からは「何で迎えに出ないんだ」と怒られます。でも、この集中力のおかげで、岐阜高に合格できました。高校1年生の夏、姉が20歳で亡くなる。人の死に方について考え始めるきっかけになった。姉は足のしびれが治まらず病院に行く、即入院となりました。すぐ歩行も困難にな



20歳で亡くなった姉(左)。人の死に方を考えるようになった

り、12日目、医師から死期が迫っていると告げられました。父は「家に連れて帰る」と言い、姉を背負って病院の表玄関を出ました。その翌日、姉は息を引き取りました。表玄関から出たのには意味があります。昔の家では、人が亡くなると、お座敷から出棺しました。ところが、病院だと裏口から出される。なぜなら、病院では死は「敗北」だからです。父はそれが許せなかったのだと思います。姉の死が医師を目指した直接の理由ではありません。ただ、人の死に方について考えるようになったのは姉の死がきっかけだったと思います。医師になり、在宅医療の道を歩んだのも、姉が導いたのかもしれません。

教師になろうと考えていた。しかし、名古屋大学医学部に進む。数学が得意だったので、京都大学理学部数学科に進もうと思っていました。ところが、願書提出締め切りの5日前に父が「京都にいたら、自分が死んだときに檀家参りができなくなる。名古屋大学に志望を変えてくれないか」と言い出したのです。当時、父の知人の名古屋大学医学部助教授で僧侶でもある人から「医者も僧侶も命を預かるのは同じ。名大医学部を受験したら」と勧められ、志望を変更、合格しました。大学では弓道部などに所属。学業の方はサボリ気味でしたが、名古屋にある15軒の檀家はきちんと回りました。卒業後は弓道部の先輩がいた大垣市民病院(岐阜県大垣市)に就職しました。4年勤務し、1977年に名大第二内科循環器グループに移り、ここで心不全治療をテーマに博士論文を書き上げました。次に一宮市立市民病院今伊勢分院(当時、愛知県一宮市)に赴任しました。経営立て直しがミッションで、激務がたたって網膜に血栓ができました。そこで目のリハビリを兼ねてゴルフを始めました。そんなとき、ゴルフ仲間の開業医から岐阜市にあるクリニックの事業承継を頼まれたのです。目の病気もあるし、「勤務医よりも開業医の方が楽かな」と思い、引き受けました。(大橋正也)

は一定の要件が必須となる。変更の経緯としては、経団連と大学関係者による「産学協議会」が学修機会を損なわずに、学生の自立的なキャリア形成支援を実現する取り組みの実施を求めて22年4月に報告書を発表。同年6月に文部科学省、厚生労働省、経済産業省の3省合意により「インターンシップの推進に当たっての基本的考

一方、単日開催のイベントや説明会はインターンシップではなく「オープン・カンパニー」に、大学及び一部の企業が社会的責任の一環として行ったキャリア開発プログラム等は「キャリア教育」と名称が変わる。そこで取得した学生情報は採用活動に活用できず、インターンシップとの違いは明確になっている。

とす④学業との両立の観点から、夏休み、冬休みなどの長期休暇期間に行う⑤プログラム概要や実施期間、就業体験内容などの情報を募集要件に記載する、といったことだ。こうした要件が整理されたことで、学生はインターンシップを通じて一定期間の就業体験を積むことが可能となり、自分に合う職場か、学んだことを生かせる環境かを

要件定義、目的持ち参加を

方」が報告書の内容も踏まえながら改正された。

これにより、インターンシップ参加の目的は「就業体験を通じて、自らの能力を見極める」ことと再定義された。新たなインターンシップに限り、企業はそこで得た評価などの学生情報を3月以降は採用広報活動に、6月以降は採用選考活動に活用できるようにしたのである。

ではインターンシップにはどのような要件が定められているのか。「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」では、以下の5点が定められている。

- ①実施期間の半分を超える日数を職場での就業体験に充てる
- ②職場の社員が学生を指導し、学生に対しフィードバックを行う
- ③汎用的能力活用型は5日間以上、専門活用型は2週間以上(リクルート就職みらい研究所所長)

より見極めやすくなるだろう。